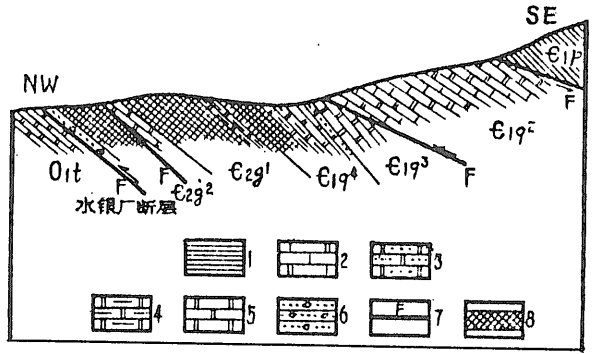


第15図 水銀産鉱床の鉱床胎地質断面概要図
 1—頁岩、2—苦灰岩質石灰岩、3—砂質苦灰岩、
 4—泥質苦灰岩、5—苦灰岩、6—角礫岩、7—断層、
 8—鉱体。



というわけである。その探鉱場・探鉱坑道はいうまでもなく 現在の地名のどれに相当するかもよいかの確に必要があろう。それは考古学や歴史学の分野だろうが 地質学的に目的の地点に迫ることだって不可能ではない。中国の地質専門家 とくに水銀産鉱床の研究者たちも目下努力中とのことである。その探索の一端を紹介すれば次のように言えよう。

前記河池地方の域内の南丹県と河池県には いずれも水銀産鉱床が存在している。南丹水銀産鉱床の鉱体は主に鉱染鉱で構成され 角礫岩化した石灰岩の破碎帯中に分布し 鉱化帯は延長・幅ともに比較的一定していて こまかな割れ目が集中する部分で水銀含有率をもっとも高い。一方 河池県の辰砂産鉱床は1941年に開発が始められ そのとき辰砂の結晶の粒径4 mm以上のものを1級品とすることが規定されたという。この規格はレトルトでの蒸溜の場合でなく 高級顔料として使う場合と考えればよい。

さらに広西全域でいえば 熱水性水銀産鉱床帯付近には砂水銀産鉱床が少なからず分布し 石灰岩中の漏斗状カル

スト内に多く堆積しているが 残存するラテライト中に辰砂が含まれている例もいたるところで認められ 沖積砂・粘土層中に辰砂がいわゆる“芋辰砂”をつくって集積する場合も多い。以上の辰砂と辰砂産鉱の産状は古文書の記録とも符合するというのである。目標を隣接し合う上記両県とその周縁地区にしぼるということらしい。

思州： この産鉱床について いくらか筆が重ねられている古文書としては 《元和郡県志》 《太平寰宇記》 《元史・食貨志》がある。それを総合すると 産鉱床は漂砂産鉱床で辰砂を産出し 産鉱床の近くで水銀の精錬が行われ 現在の徳江県城の北側のいくらか離れたところに掘場があり 唐の時代だけでなく宋・元の時代にも稼行されていたようである。

唐時代の残る容州（現在の容県） 興州（現在の略陽） 漢州（現在の漢江） 茂州（現在の茂汶？）の産鉱床については 連州の場合と同じように お話できるような資料にまだめぐり合っていないし 漢州の場合は前述の桐梓—綦江水銀産鉱床区に入り 桐梓産鉱床と同様な産鉱床といえるだけである。（おわり）

地学と切手



ブローケンヒル産鉱床帯発見
 75年記念切手

P. Q

ブローケンヒル (Broken Hill) 産鉱床帯はオーストラリアのニューサウスウェルズ州にあって 同国の鉛・亜鉛のうち80%を産出している。

産鉱床帯は先カンブリア時代の結晶片岩類と 花崗岩・閃緑岩からなる。産鉱床は結晶片岩中に胎胎しており 一時は産鉱層と考えられたが 鞍状の産鉱脈で 中心部に鉛・亜鉛の硫化産鉱物が これを離れた地域に白金産鉱物や錫・タングステンの産鉱物が分布し現在では産鉱脈の形を有する接触交代産鉱床と考えられている。

幅30m 深さ100mの酸化帯があり その下部は硫化産鉱物に変って行く。産鉱石の平均組成は 鉛11—17% 亜鉛10—16% 銀90—11g/tである。

産鉱帯は約5kmにわたり 南部ブローケンヒル 北部ブローケンヒル 新ブローケンヒル等の産鉱山がある。

切手は1958年9月10日発行され 立坑 選鉱場 産鉱車などが画かれている。